

## 令和4年度 事業報告

「すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現。すべての人が、子どもや子育てについての価値を認め合い、子育てを楽しむ気持ちと互いに支えあう社会が成り立つことを基本において、すべての子どもの権利を保障し、すべての高齢者や障害児（者）と一緒に生活していく社会をめざす。」については、今できることを保育園で、考えて実行していくようにした。子どもたちが地域の未来を支え築いていく存在であることを認識し、園児数が減ってきたことや小学校が特認校として子どもの減少を少しでもくい止めようとしている姿を受け、保育園でもそういった考えを持って行動していかなければいけないと話合った。今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響があり、当園でも、新型コロナウイルス感染者が確認されたため、クラス閉鎖や濃厚接触者は自宅待機の協力をお願いするなど落ち着かない日々が続いた。感染防止対策をしながら日々工夫をし、安全で情緒の安定した生活ができるように取り組んできた。例年行っていた行事は、内容を変更したり、縮小をしながらもできることは工夫して行ってきた。

### 子どもの育ちを保障する

(1) 保育所保育指針に基づく質の高い保育を提供するように努めた。

- ・自分で考えられる力をつける。人との協調性をもち、自主的・積極的に保育に取り組もうとする力をつけるよう、また、困難にも諦めないで取り組もうとする力をつけるよう努めた。
- ・目先の学力より、後伸びする力（非認知能力＝積極性や粘り強さ、リーダーシップやモチベーションの高さといった、数値では図りにくい能力）を大切だと考える保護者が増えるような保育の実践に努めた。
- ・子どもは家庭環境や体験したことが一人ひとり違うので、一人ひとりを大切にし、その子にとって一番良い援助をし、それによって子どもたちの感性や活動が広がり、豊かな体験へとつながっていくような保育を実践し、支援が必要な子どもには、一人ひとり細かい支援ができるよう保育士の配置をした。
- ・医療的ケア児の入所を考え、実際に実施している保育園を見学したが、継続的に行うには設備の問題、職員の課題もあり実施は困難だった。しかし、将来的には考えて行きたい。
- ・保育園の保育と小学校教育との円滑な接続のため連携に努めた。しかしながら保育園と小学校の職員間の交流は不十分であり、今後は円滑な交流ができるよう努めたい。
- ・小学校と、保育園がお互いに理解を深めるための交流をもつことができなかったが、1年生とマラソンをしたり5年生がお手紙を持って来てくれたりと新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらもできる事をしていった。
- ・乳児期から青年期まで連続した発達の視点による保育をするために、個々の特性や家庭状況等を密に連絡しあう。また、保護者のサポートも不可欠なので保護者との連携も必要である。

(2) 保育者の資質向上を図る。

・「保育の質は、保育者の質」

乳幼児期の子ども達にとって保育園は生活の場であり、『遊び』は重要な学びと発達場である。子ども達は、遊びを通して様々なことを経験しながら、学び、心、体、知、社会性が発達していく。保育者の主要な役割は、その発達を支援することであり、そのために常に子どもが今、何を学んでいるか見極め、最適な関わり方を判断していかなければならない。従って子ども達の発達を促す良い保育（＝質の高い保育）を行うためには、保育者の力量が不可欠であるので日々の研鑽であるという意識を持って保育実践に取り組んだ。

- ・研修などを通して新しい知識・新しい考えを取り入れる必要がある。研修の内容によって参加したい職員がいる時は、参加できるように配慮する。自分の意見を素直にいえる環境があり、また相手の意見も取り入れられる柔軟な心を持つことにより職員同士の向上を目指すことが大事であるので、そのような環境づくりに努めた。その中でも職員会等で職員の意見をできるだけ聞くようにし、反映するようにした。
- ・研修会に参加した職員の報告を元に職員が議論をし、共有化を目指す。職員会で研修した内容を共有するために報告の時間をとった。
- ・キャリアアップ制度を利用して、18回の研修に参加した。前半はオンラインでの研修が多かったが後半になると会場での研修が増えてきた。

(3) 職員間の共通理解・信頼関係の構築をいっそう図り、自己課題発見（年1回実施自己課題発見シート活用）に努めた。集計表を見ながら不十分なところについて皆で話し合った。

- ・不適切保育の報道を受け、自分たちの事と捉え全国保育士会の「人権擁護のためのセルフチェックリスト～子どもを尊重する保育のために～」を活用して保育者一人ひとりが日々の自分の保育を振り返ると共に職員同士でも話し合いを持った。普段何気なく使っている言葉や態度がそんなつもりではなくても子どもたちがどんなに感じるか改めて考えていかなければいけない。時間や自分に余裕がない時、強要するような関わりになってしまうことがある等今後の課題が出た。
- ・職員がお互いの立場を理解し、思いやることが一番大事である。そのためには、それぞれの意見が言えるような雰囲気が必要で、お互い納得できるまで話し合える環境の中で信頼関係を築いていくように努めた。
- ・皆で決めたことについては遵守し、間違っていることは年齢、経験年数にかかわらず、言い合える仲になること。また、指摘されたことは素直に受け止めていくようにすることが必要。
- ・組織の目標達成が第一と考え、自己の損得でなく、どうすることが善いか悪いかの判断ができるように努めた。

(4) 地域貢献に取り組む

- ・ふれあい広場（園庭開放）・・・毎週木曜日（0、1歳児を主に16名程の利用があった。）  
これからは、健康に関わる相談などをしていきたい。
- ・自立支援施設との交流は、天候不順の為できなかった。  
夏祭り、ふれあい展は、少し規模を縮小して行うことができた。
- ・児童相談所・家庭支援センター・保健師と連携をとるように努めた。

令和4年度 年間入所人員状況（利用定員100人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
乳児	3	3	5	7	8	8	9	9	9	9	9	9	88
1歳児	12	12	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	143
2歳児	11	11	12	12	12	12	12	12	12	12	11	11	140
3歳児	17	17	16	16	16	16	16	15	15	15	15	15	189
4歳児	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	15	15	190
5歳児	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
合計	77	77	78	81	82	82	83	82	82	82	80	80	966